

Nishida Keisen

西田恵泉

生誕120年記念

—ふるさとを愛したまなざし—



西田恵泉「麦秋」（昭和4年＝1929年、京都市立絵画専門学校卒業制作）

栗東歴史民俗博物館 所蔵（栗東市立大宝小学校 旧蔵）

会期：令和5年1月14日（土曜日）から3月5日（日曜日）まで

開館時間：9時30分から17時まで（ご入館は16時30分まで） 入館料：無料

会期中の休館日：毎週月曜日、2月24日（金曜日）

主催：栗東歴史民俗博物館 新型コロナウイルス感染症対策の一環として、事業を延期または中止する場合がございます。
事業開催に関する状況は、事前に栗東歴史民俗博物館までお問い合わせ下さい。

【関連企画】

・ **展示解説会** 1月21日（土曜日）、2月25日（土曜日） いずれも14時から（1時間程度）



栗東歴史民俗博物館

滋賀県栗東市小野223-8

<http://www.city.ritto.lg.jp/hakubutsukan/>

TEL 077-554-2733

FAX 077-554-2755



西田恵泉「安養寺山からの眺望」

（昭和50年＝1975年）

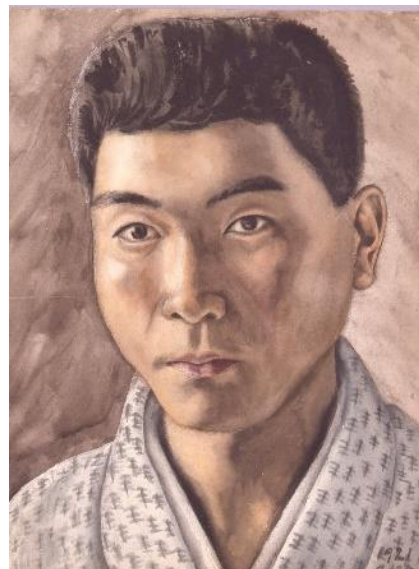
栗東歴史民俗博物館 所蔵（栗東市役所 旧蔵）

生誕120年記念

西田恵泉 —ふるさとを愛したまなざし—

日本画家・西田恵泉（1902～80）は、大宝村繕（栗東市繕）の農家に生まれました。幼い頃から画家を志し、大宝尋常高等小学校を卒業した後、日本美術学校、京都市立絵画専門学校に学び、堂本印象（1891～1975）に師事します。

早くから多くの展覧会で入選を重ねたのち、昭和10年（1935）に郷里に戻った恵泉は、自身の創作活動はもとより、蒲生郡桜川村綺田（東近江市綺田町）の洋画家・野口謙蔵（1901～44）とともに、滋賀県の画壇の形成にも取り組んでいます。昭和18年（1943）から翌年3月にかけて、恵泉は、従軍画家としてフィリピンに派遣されることとなりますが、その背景には、当初滋賀県から打診を受けた野口謙蔵が、病気を理由に辞退したという事情がありました。



西田恵泉「自画像」
（大正8年＝1919年） 個人蔵

終戦後の恵泉は、自らが生まれ育った農村や、琵琶湖をとりまく近江の風景を画題とした創作活動を続けたほか、高等学校の美術講師として後進の育成にも取り組みます。また、晩年には美術の啓蒙、普及にも尽力し、昭和51年（1976）に設立された栗東町文化協会の初代会長に就くなど、栗東を中心とした地域文化の向上に貢献しました。



従軍画家時代の
西田恵泉（右）



西田恵泉「マニラ湾より西を望む」
（昭和18年＝1943年9月12日）
個人蔵

昭和50年（1975）、金勝山での全国植樹祭に出席するために栗東を訪れた天皇・皇后への天覧画として、「安養寺山からの眺望」（チラシ表面）を描きます。栗東のまちを中心に、遠くは琵琶湖や湖西の山並までを描く、恵泉の晩年を代表するこの大作は、ふるさとを愛し見つめ続けたそのまなざしを今に伝えてくれています。

この展覧会では、西田恵泉の生誕120年を記念し、ふるさとを愛し見つめ続けたその画業を紹介します。



西田恵泉「家路」【第10回日展入選】
（昭和29年＝1954年） 個人蔵

子どもたちの力作をご覧下さい！！

第53回 栗東市青少年美術展覧会

会期：1月27日（金曜日）から29日（日曜日）まで

第69回 滋賀県教育美術展

会期：2月8日（水曜日）から23日（木曜日・祝日）まで

新型コロナウイルス感染症対策の一環として、事業を延期または中止する場合がございます。事業開催に関する状況は、事前に栗東歴史民俗博物館（077-554-2733）までお問い合わせ下さい。